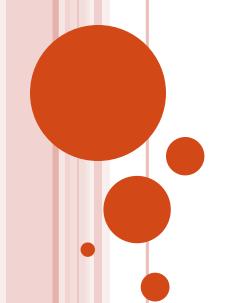


2022年度 「地域密着型金融推進計画」の進捗状況

~当金庫の取組み事例~

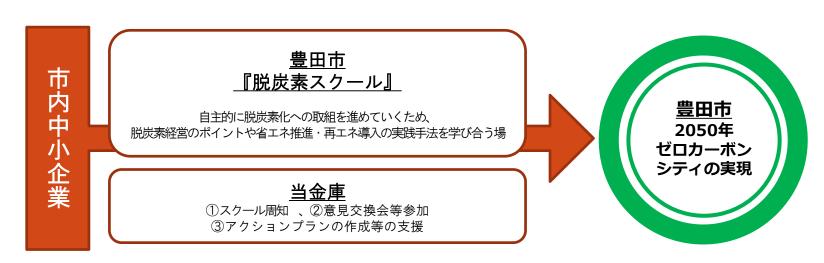


2023年10月



1.2050年ゼロカーボンシティに向けた、 豊田市『脱炭素スクール』への協力

- ・当地域の基幹産業である自動車業界は「100年に一度の大変革期」と言われ、CASE(コネクティッド・自動化・シェアリング・電動化)などの技術革新やカーボンニュートラル(CN)に向けたEV化の進展から素材や加工方法の変更などが求められています。しかしながら、依然として多くの中小企業においてそれらの経営課題に対応できていないのが現状です。
- ・一方、豊田市では、2030年に2013年度比 CO_2 排出量50%削減という目標を掲げ、2050年ゼロカーボンシティに向けた取組みを加速化しています。市内における CO_2 排出量部門別割合は産業、業務部門合わせて約68% (2019年) を占め、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けては、市内の産業・事業活動からの更なる CO_2 削減が必要となっています。
- ・そこで、中小企業の経営者を中心に、自主的に脱炭素への取組を進めていくため、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実践手法を学び会う場として、2021年10月、豊田市『脱炭素スクール』が開校されました。
- ・当金庫は、豊田市内取引先へ本スクールの周知を行い、開講後は、スクール参加企業同士の 意見交換等に参加、アクションプランの作成等の支援を行っています。



■豊田市脱炭素スクール概要

スクール名	豊田市脱炭素スクール	
期間	年間10回の連続講座	
スクール形式	脱炭素経営及び削減対策の基礎知識やポイント等を学ぶ「講義」、自社のCO ₂ 削減効 果の考え方や事業計画の組み立てを学ぶ「演習」を組み合わせ、より実践的に学べる 内容。	
修了要件	①全ての講座を受講 ②本講座の成果を取りまとめ・発表 ③企業としての本講座成果の発信	
当庫の役割	・豊田市内取引先への本スクール周知案内 ・スクール参加企業同士の意見交換等に直接参加し、参加企業のアクションプランの 作成等を支援	
参加企業数	第1期(2021年10月~2022年9月):16社 第2期(2022年10月~2023年9月):9社	





第1期 全16社がすべてのカリキュラムを修了



2.今後の地域経済の発展につながることを期待し、 産学連携講座を継続開催

- ・当金庫は「地域経済の発展及び学術文化の振興」を目的に、2018年5月16日に愛知学院大学 と産学連携協定を締結し、2019年度から同大学商学部2年次以上を対象に<mark>毎年「産学連携講</mark> 座」を開催しています。
- ・連携講座では当金庫本部職員が入れ替わり講師を務め、それぞれの専門分野から「地域金融機関とその組織・行動に関する基礎概念や戦略等」に関する講義を行っています。大学で学んだ簿記や会計学等の「知識」と金融機関の「実務」とのつながりを確認できる場となり、参加学生の成長が、今後の地域経済の発展につながっていくことを期待しています。
- ・この他にも、当金庫は、愛知工業大学金融リテラシー教育や地元中学校職場体験学習受入れ などを行い、**将来を担う若者たちへの金融教育を継続的に実施しています**。

講座名	愛知学院大学 商学特論X豊田信用金庫連携講座		
期間、回数	2022年4月~7月、全15回		
概要	地域金融機関とその組織・行動に関する基礎概念や戦略等		
講義テーマ	・大学生の金融リテラシー ・金融機関の実務 ・中小企業の財務分析及び事業性評価 ・地域金融機関の役割、現状と課題、展望 ・企業の求める人物像		

■2022年度金融教育主な取組実績

0.	
The state of the s	a beliefe a
	W. T.
	ASSET.

愛知学院大学における講義風景

取組時期		内容
2022年	4月~7月	愛知学院大学産学連携講座(全15回)
	6月	豊田市立末野原中学校職場体験学習(大林支店)
	10月	愛知工業大学金融リテラシー教育
	12月	みよし市立三好丘中学校職場体験学習(浄水支店)
7	· の他	・中学生のためのお仕事ブック(愛知県版)協賛 ・小学生のためのお仕事ノート(豊田市版、みよし市版)協賛 ※金融業のお仕事紹介として、当金庫が掲載されています。